

II 研究の実際

複式学級のよさを十分生かすために、学習内容を学年間で可能な限りそろえて授業を実施するようにしている。そうすることで、異学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導を行うことができ、学習中、下の学年の子供が上の学年の子供からアドバイスをもらったり、上の学年の子供が、下の学年の学習内容を参考にしたりすることができる。これを基に、【視点1】・【視点2】を行っていくことが大切である。

1 【視点1】 複式学級のよさを生かした〈考えの共有〉

(1) 子供が主体的に学習を進める「ガイド学習の流れ」

(関連する複式学級のよさを生かした指導 **あ** **い** **え**)

〈考えの共有〉を図るために、本校で、これまで活用してきた「話し合いの話型」、「学習の進め方」、「ガイド学習の手引き」と板書の関連を図り、子供が授業のスタートからゴールまでを具体的に見通し、子供主体で学習を進めるようにしている。

昨年度までは、ガイド学習を充実させるために、「話し合いの話型」、「学習の進め方」、「ガイド学習の手引き」を作成し活用を図ってきた。しかし、活用場面が限定的であったり、複雑で整理されていなかったりして、学習での活用があまり図られていなかった。

そこで、これらを整理し、1単位時間の学習の進め方と板書、そして、本校の課題でもある話し合いの仕方を「ガイド学習の流れ」(資料7)にまとめ、「自分たちで黒板をつくる」という考え方の下、子供がより主体的に学習に取り組むことができるようにした。

作成する際には、発達の段階を次のように踏まえた。

低学年	<ul style="list-style-type: none"> 学習の手順や学び方を身に付ける段階 → ガイド学習の進め方や話型を詳細に提示
中・高学年	<ul style="list-style-type: none"> 身に付けた学習の手順や学び方を活用・発展させる段階 → 話型ではなく、ポイントのみを提示

【資料7 発達の段階によるガイド学習の流れの比較と話し合いの仕方の詳細】

